

研究ノート

愛媛県各医療機関における HIV/AIDS 研修会後の
アンケート調査を介した比較検討

末盛浩一郎¹⁾, 田中 景子²⁾, 石川 朋子³⁾, 小野 恵子³⁾, 芝田 佳香⁴⁾, 武田 玲子⁴⁾,
若松 綾⁴⁾, 宮崎 雅美⁴⁾, 中尾 綾¹⁾, 乗松 真大⁵⁾, 木村 博史⁵⁾,
山岡 多恵⁴⁾, 井門 敬子⁵⁾, 竹中 克斗¹⁾, 高田 清式⁶⁾

¹⁾ 愛媛大学大学院 血液・免疫・感染症内科学, ²⁾ 同 疫学・予防医学,

³⁾ 愛媛大学医学部附属病院 総合診療サポートセンター, ⁴⁾ 同 看護部, ⁵⁾ 同 薬剤部, ⁶⁾ 同 総合臨床研修センター

目的: 愛媛県内の各医療機関において, HIV/AIDS 研修会を行った後にアンケート調査を行い, 疾患の理解および患者受け入れにどのような違いがあるか比較検討した。

方法: 2015年7月~2019年12月に研修会を行った25施設の計1,868人を対象とした。調査は年齢・性別・職種・研修内容の評価・疾患に対する情報収集の意欲・疾患の理解・患者受け入れ, の7項目で行った。

結果: 年齢はエイズ中核拠点病院(以下, 当院)で若い年齢層の割合が高かった。性別はいずれの医療機関でも女性の割合が高かった。職種は各医療機関で偏在しており, 当院では医師と看護師の割合が高い一方で, 高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院ではその割合が低く, 介護士の割合が高かった。研修内容の評価・疾患に対する情報収集の意欲においては, いずれの医療機関でも高い評価が得られた。疾患の理解は当院と高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院で高く, 精神科病院で低かった。患者受け入れは高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院および精神科病院で低かった。

結論: 本研究結果からは愛媛県の課題として, 高齢者・障害者支援施設, リハビリ・療養病院および精神科病院への啓発・連携強化が特に重要である。

キーワード: 比較検討, HIV/AIDS 研修会, アンケート調査

日本エイズ学会誌 23: 26-32, 2021

序 文

抗HIV薬の飛躍的な進歩に伴い, HIV患者の予後は格段に向上し, 非感染者と変わらない社会生活を営むことが可能となっている¹⁾。HIVはコントロール可能な慢性疾患へと移り変わり, HIV患者の高齢化や生活習慣病, 非AIDS指標悪性腫瘍などが注目されている²⁾。一方, 本邦においてはこれらのプライマリケアが必要となるHIV患者の医療機関への受診が, HIV関連のスティグマや疾患に対する差別・偏見などにより十分行われていないことが指摘されている^{3,4)}。愛媛県ではAIDSを発症してからHIV感染症が見つかる比率が全国と比べ10%ほど高く⁵⁾, AIDSの後遺症により長期療養が必要な症例を経験することも稀ではない。このようにプライマリケアの重要性に加え, 患者の高齢化により患者動向が地域の医療機関や長期療養施設を中心とした福祉施設へと移り変わっている。しかしながら, 愛媛県では2019年12月末までエイズ中核拠点病院で

ある愛媛大学医学部附属病院(以下, 当院)で累計191人のHIV診療を行っており, 同時期の愛媛県でのHIV/AIDS届け出累計が156人であることから, 当院への患者集中が顕著となっている。このような背景の下, 地域連携を円滑に進める手段として当院では多職種からなるHIV診療チームによる出張研修を2015年より積極的に行っており, その際にアンケート調査を行い, 出張研修の有用性や地域での問題点を検討してきた⁶⁾。今回, 県内の医療機関で開催された研修会後に行ったアンケート調査結果を各医療機関の種別に分類し比較検討した。

方 法

1. 対象施設

当院においては厚生労働省による「感染防止対策加算1」を取得していることから, 全職員を対象とした感染防止対策に関する講習会として研修会を行った。当院以外の医療機関(高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院, 診療所・クリニック, 精神科病院, 一般病院)においては, 当院より患者の転院相談をした機関および研修希望の施設を対象とした。

著者連絡先: 末盛浩一郎 (〒790-0295 東温市志津川 愛媛大学大学院血液・免疫・感染症内科学)

2020年4月25日受付; 2020年9月11日受理

2. 研修内容

① 国内・県内の患者状況, ② 疾患の基礎知識, ③ 治療, ④ 感染対策, ⑤ 心理面, ⑥ 医療・福祉制度からなり, 事前に受講者から質問や疑問を確認しておき, その施設の特徴やニーズに応じ, 講義内容および講師メンバーを調整した。講義時間は30~60分で終了した。

3. 対象者

2015年7月~2019年12月に研修会を行った25施設の全職種を対象とした。講義終了後, 会場内でアンケート調査票に無記名で回答いただき, 退出時に回収を行った。

4. アンケート内容

① 年齢, ② 性別, ③ 職種, ④ 研修内容の評価, ⑤ 疾患に対する情報収集の意欲, ⑥ 疾患の理解, ⑦ 患者受け入れ, について選択式で行った。

5. 分析方法

アンケート内容の7項目について5つの各医療機関(高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院, 診療所・クリニック, 精神科病院, 一般病院, 当院)で比較を行った。統計解析にはSAS 9.4 (SAS Institute, Inc., Cary, NC, USA)を用い, χ^2 検定を実施した。有意水準は5%とした。

倫理的配慮

アンケート調査前に研究目的を伝え, 回答は無記名とした。また, 結果を今後の研修の改善に活かすことと, 学会・学術誌などで公表することの了承を得た。

結 果

1. 対象施設および対象者背景

高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院11施設(323人), 一般病院8施設(553人), 診療所・クリニック3施設(37人), 精神科病院2施設(106人), エイズ中核拠点病院1施設(849人)の, 合計1,868名より回答を得た。職種別では, 医師140名, 看護師896名, 理学療法士(PT)・作業療法士(OT)・言語聴覚士(ST)191名, 介護士155名, 事務員172名, その他(薬剤師, 心理士, 社会福祉士, 精神保健福祉士, 栄養士, 検査技師ほか)297名, 未記入・無効回答17名であった。性別は男性475名, 女性1,374名, 不明19名, 年齢は20歳未満30名, 20代452名, 30代458名, 40代449名, 50代365名, 60歳以上107名, 不明7名であった。

2. 年齢, 性別, 職種 (図1)

年齢は20代の割合が当院(32%)で高く, 高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院(12.1%)で低く, 一方, 50代と60歳以上の割合は高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院(32.7%)と精神科病院(32.1%)で高く, 当院(18.7%)と診療所・クリニック(22.2%)で低かった。

施設により年齢分布に差が認められた($p<0.0001$)。

性別はいずれの医療機関でも女性の割合が60~80%と高かった。

職種は医師の割合が当院(10.8%)と診療所・クリニック(9.3%)で高く, ついで一般病院(6.1%), 精神科病院(5.7%)と続き, 高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院(1.3%)で最も低かった。看護師の割合は当院(58.5%)で高く, 高齢者・障害者支援施設, リハビリ・療養病院(23.5%)で低かった。PT・OT・STの割合は, 当院(12.5%), 一般病院(9.8%), 高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院(9.8%)で高く, 精神科病院(0.9%)と診療所・クリニック(0%)で低かった。介護士の割合は, 高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院(34%)で最も高い一方で, 当院は0%であった。事務の割合は各医療機関で5~10%程度であった。その他は, 当院で7.5%と低く, 当院以外の医療機関では20~30%と高かった。

3. 研修の理解度, HIVに対する情報収集の意欲 (図2)

研修の理解度はいずれの医療機関でも「理解できた」が84~91%と高い理解度が得られた。HIVに対する情報収集の意欲は, 「最新情報が欲しい」と「知識を求めざるを得ない」がいずれの医療機関でも90%以上であった。

4. 疾患の理解度, 患者の受け入れ (図3)

疾患の理解度は, 「慢性疾患で恐れることはない」および「慢性疾患だが, 治療している場合は恐れなくていい」といった意見の割合が当院(83.3%)と高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院(81.0%)で高かった。「十分な治療が必要で個人施設では難しい」および「かなり難しく専門病院」といった意見の割合が精神科病院(32.1%)で高かった。これらの割合は, 医療機関の種類によって差が認められた($p<0.0001$)。

患者の受け入れは, 「受け入れるべき」・「薬で安定している場合」・「不安だが受け入れる」といった意見の割合が当院で97.8%と非常に高かった。「受け入れるのがかなり難しい」・「受け入れない」といった意見の割合が高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院(12.7%), 精神科病院(10.4%)で高く, 医療機関の種類によって差が認められた($p<0.0001$)。

患者の受け入れについて, 「受け入れるべき」・「薬で安定している場合」・「不安だが受け入れる」という肯定的な回答と, 「受け入れるのがかなり難しい」・「受け入れない」という消極的な回答の2群に分類し, 性別, 年齢, 職種, および施設の種類に関する回答の分布に差があるかどうかを検討した。2群間で, 性別の割合に差は認めなかったが($p=0.75$), 年齢については, 30代以下では肯定的な回答が多かった($p=0.047$)。職種別では, 医師, 看護師, およびPT, OT, STでは肯定的な回答が多く, 介護士, 事務

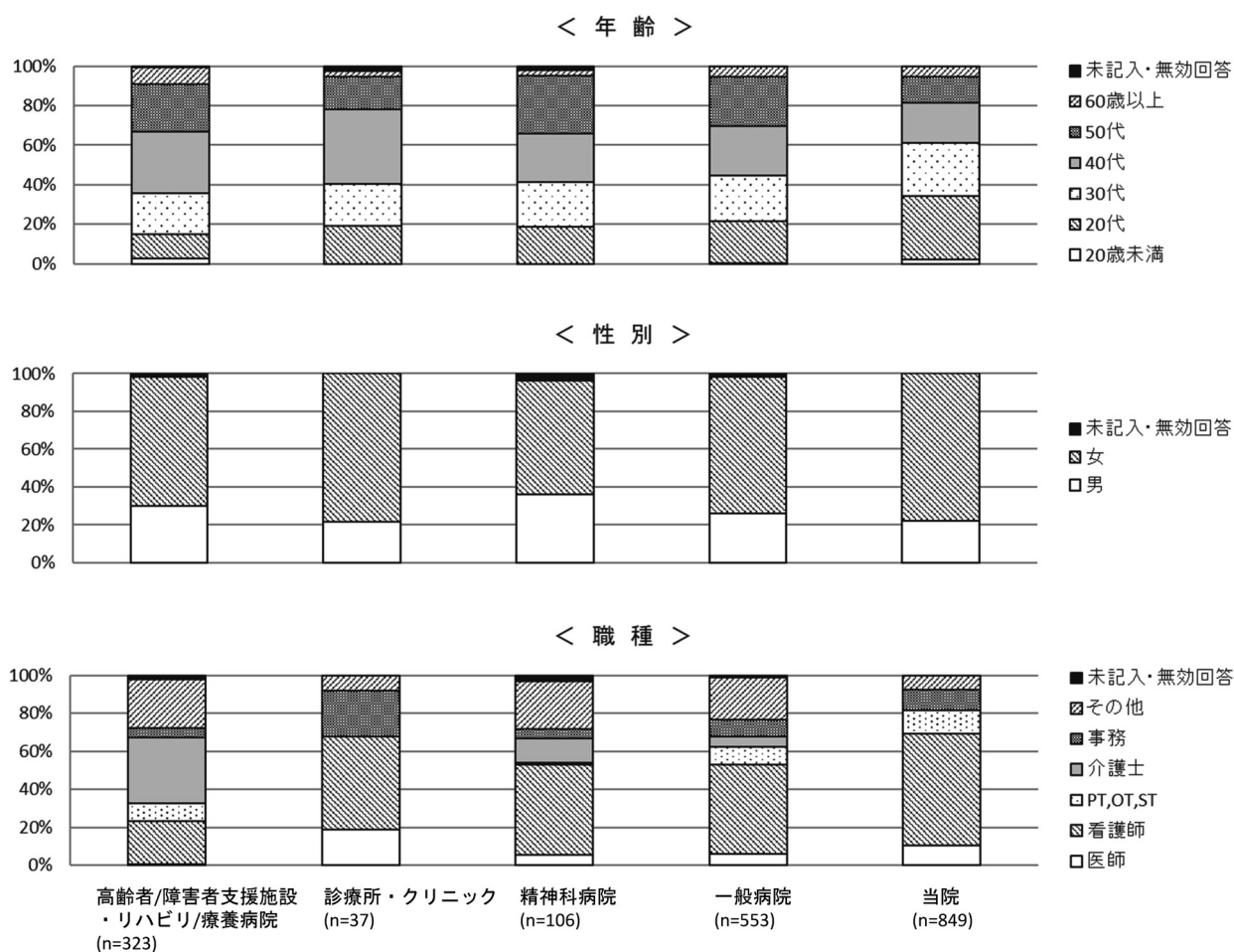


図 1 年齢, 性別, 職種

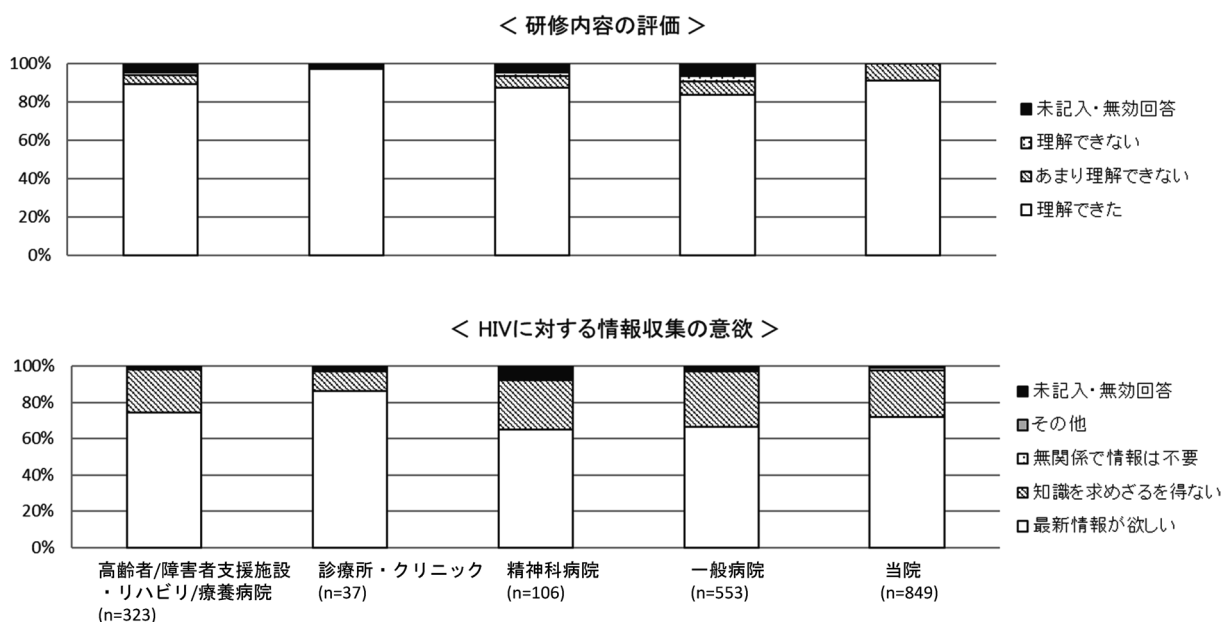


図 2 研修の理解度, HIV に対する情報収集の意欲

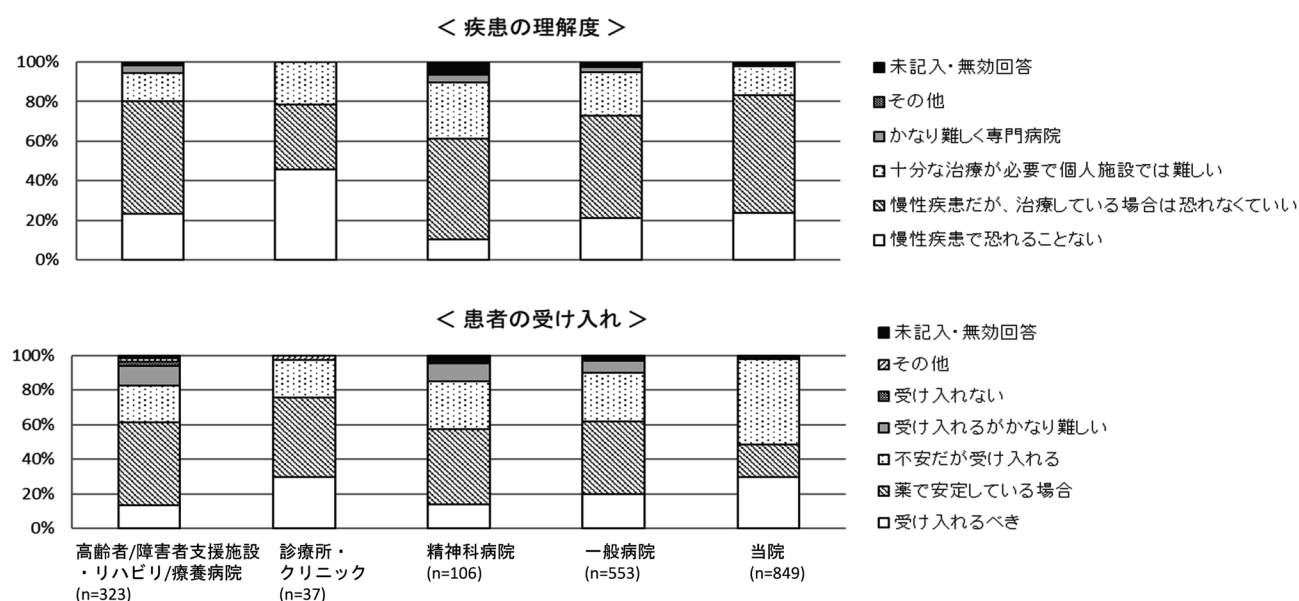


図 3 疾患の理解度, 患者の受け入れ

では消極的な回答が多かった ($p < 0.0001$)。施設の種類の別では、当院および診療所・クリニックでは肯定的な回答が多かった ($p < 0.0001$)。

考 察

2007年4月に当院が愛媛県のエイズ診療中核拠点病院に指定されたことを受け、これまで愛媛県内のエイズ診療は当院が中心的役割を担ってきた。治療の進歩によりHIV感染症が慢性疾患となり、十分管理可能な疾患へと移行したことで多くの患者は外来通院が可能となり、ADLの向上や長期予後が望める病態となっている。実際に当院の患者死亡率は過去10年(2010~2019年)で4.4%(5/113人)と低値である一方、患者年齢が徐々に上昇(2019年12月末時点で平均年齢 48 ± 11 歳、最低年齢21歳、最高年齢78歳)しており、高齢化している。この高齢化問題は世界的な動向で、世界中の3,450万人のHIV陽性者の10%以上が50歳以上で、平均年齢は上昇し続けている⁷⁾。また、HIV感染者ではHIVによる慢性炎症状態がagingを加速させ、高血圧症、糖尿病、慢性腎疾患などの生活習慣病に加え、精神疾患や非AIDS指標悪性腫瘍などの合併症が非感染者と比べ高いということが報告されている^{8~10)}。これらはHIV患者が、幅広い医療機関を必要としていることを示している。

しかしながら、HIV感染症の病態は安定しているが、HIV感染症以外の疾患や療養・介護に対する患者支援において、診療・入所拒否がしばしば経験される^{11,12)}。当院でもこの問題に直面し、地域のエイズ診療ネットワークが不十分であることが判明したため、この問題を解決するために

地域連携・社会資源の再開発が喫緊の課題となった。そのため、2015年より積極的に多種多様な医療機関に出張研修を行うとともに地域の現状を把握するため、講義後にアンケート調査を行ってきた。このアンケート調査結果から受講者は研修後に患者の受け入れに前向きとなり⁶⁾、実際に出張研修を行った施設で4名のAIDS患者(脳悪性リンパ腫1名、HAND:HIV-associated neurocognitive disorders 3名)を14施設で受け入れていただいた。このためわれわれは出張研修が受講者の意識変容だけでなく行動変容にも影響を及ぼす有用なツールだと考え、この活動を継続している。

本研究において、〈年齢〉は当院と診療所・クリニックで20代の割合が高く、高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院と精神科病院で50・60代の割合が高かったことは、疾患の理解度および患者の受け入れの結果に影響を及ぼしたかもしれない。障がい者福祉施設職員におけるHIV患者の自施設利用に関する意向を調査した先行研究では、60代以上の15.8%で「利用して欲しくない」と答えた一方で、20~50代でその比率は4%以下であった¹³⁾。すなわち、50・60代の中には1980年代のエイズは「正体不明の治療法もない恐ろしい病気」という印象が拭えず、一方若い世代では教育によりHIV感染症は早期診断・治療で予後良好であり、感染対策も標準予防策で十分であることを知っており、けっして「怖い病気ではない」という認識を持っていたことなどが推測される。

〈職種〉では当院でその他が少なく介護士がいない一方、高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院において介護士の割合が非常に高く、施設の特徴を示している。上記の

先行研究では、HIV 陽性者にサービスの提供および会った経験のある者はそうでないものと比較し、「施設を利用してもよい」と有意に多く回答していた¹³⁾。医師や看護師と比較すると介護士・その他は患者に接する機会が少なく、疾患に対する知識を得られる機会も多くないと思われるため、〈患者の受け入れ〉の結果に影響したことが推測される。

〈研修の理解度〉および〈HIV に対する情報収集の意欲〉においてはともに施設間の差はみられず、高い評価が得られていることから、われわれの研修の質が担保されているものと思われた。

〈疾患の理解度〉と〈患者の受け入れ〉においては、精神科病院での評価がともに低く、年齢 (50・60 代の割合が高い) と職種 (その他の割合が高い) の影響が示唆された。近年、HIV 患者の元来の性格傾向や心理社会的ストレスに加え、HIV に関連した精神障害 (HAND : HIV-associated neurocognitive disorders) が着目され、本邦でも HIV 感染症の 25.3% が HAND であったという報告がある¹⁴⁾。出張研修後に各施設に受け入れていただいた当院患者 4 人中 3 人は HAND であり、精神科病院での研修の必要性が確認された。高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院で〈疾患の理解度〉が高かったものの、〈患者受け入れ〉の評価が低かったのは、介護士の割合が高く、医師と看護師の割合が低いことが影響したものと思われた。

以上から〈年齢〉・〈性別〉・〈職種〉・〈施設の種類〉が〈疾患の理解度〉と〈患者の受け入れ〉に影響していると考え、これらの因子で多変量解析を試みたが、〈職種〉の「医師」で患者受け入れに消極的な人数が 0 人であったこと、〈施設の種類〉で「診療所・クリニック」で患者受け入れに消極的な人数が 0 人であったことから解析はできなかった。

今回の研究にはいくつかの限界がある。まず〈疾患の理解度〉と〈患者の受け入れ〉において施設間で統計学的有意差を認めたと、〈年齢〉・〈性別〉・〈職種〉・〈施設の種類〉の各因子での多変量解析ができなかったことから、今回の結果が施設の実態によるものか各因子によるものか、の結論がでなかったことがあげられる。次に出張研修の対象が当院より患者の転院相談をした医療機関および研修希望の施設としたことから、出張研修を拒否または希望しなかった施設が入っていないことによるバイアスが存在する。最後にアンケート調査の対象者が各医療機関の全員ではなく、出張研修の参加者のみを対象としているため、各医療機関の全体像を把握していない可能性がある。〈研修内容の評価〉・〈疾患に対する情報収集の意欲〉において、いずれの医療機関でも高い評価が得られたことから、参加者が HIV/AIDS 診療や連携に前向きである集団であることが

推測される。以上から実際の〈疾患の理解〉・〈患者受け入れ〉に対する評価は、今回の結果より低いと考えるのが妥当であろう。愛媛県内での HIV/AIDS の診療および連携の現状把握には、県内すべての医療機関での大規模なアンケート調査が望まれる。

以上の限界はあるが、本研究で得られた知見は全国の自治体で出張研修を行う際の有用な情報になると思われ、特に当県と同様な背景を持つ地方都市において結果を公表することに意義があると考え報告した。今後は本研究で検討できなかった各因子における多変量解析を行うことで出張研修の対象を明らかにし、出張研修の発展に繋げたい。

結 語

本研究の目的は、愛媛県での各医療機関における HIV/AIDS 患者の診療および連携についての現状を出張研修後のアンケート調査を介して把握することであった。調査結果から高齢者/障害者支援施設・リハビリ/療養病院および精神科病院への啓発・連携強化が特に重要であることが示唆された。

謝 辞

本研究は 2018~2020 年度厚生労働科学研究費補助金によるエイズ対策政策研究事業「ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究」(課題番号: 30150201, 研究代表者 高田清式) の一環として実施しました。研究実施と論文執筆にあたり、サポートいただいた皆様方に深謝します。

利益相反: 本研究に関しては、利益相反はない。

文 献

- 1) Obel N, Omland LH, Kronborg G, Larsen CS, Pedersen C, Pedersen G, Sørensen HT, Gerstoft J : Impact of non-HIV and HIV risk factors on survival in HIV-infected patients on HAART : a population-based nationwide cohort study. PLoS One 6 : e22698, 2011.
- 2) Deeks SG, Lewin SR, Havlir DV : The end of AIDS : HIV infection as a chronic disease. Lancet 382 : 1525-1533, 2013.
- 3) 細川隆也, 井上洋士, 戸ヶ里泰典, 阿部桜子, 矢島嵩, 板垣貴志, 大木幸子, 片倉尚子, 若林チヒロ, 山内麻江, 高久陽介 : HIV 陽性者の医療機関への受診状況—HIV 治療を目的とした医療機関および、HIV 治療目的以外の一般医療機関への受診—. 日本エイズ学会誌 18 : 40-50, 2016.
- 4) 中村美保, 前田英武, 西田拓洋, 四國友理, 小松直樹, 武内世生 : HIV 陽性者の医療機関受診について

- の実態調査. 日本エイズ学会誌 21 : 118-123, 2019.
- 5) 厚生労働省エイズ動向委員会 : 平成 29 (2017) 年エイズ発生動向年報—概要—. 2018.
- 6) 石川朋子, 末盛浩一郎, 小野恵子, 滝本麻衣, 若松綾, 中尾綾, 乗松真大, 木村博史, 井門敬子, 高田清式, 安川正貴 : 愛媛県におけるエイズ診療地域連携を目指した研修会の評価—アンケート調査による研修会有用性の検討と MSW の役割—. 日本エイズ学会誌 20 : 155-159, 2018.
- 7) Wing EJ : HIV and aging. *Int J Infect Dis* 53 : 61-68, 2016.
- 8) Wong C, Gange SJ, Buchacz K, Moore RD, Justice AC, Horberg MA, Gill MJ, Koethe JR, Rebeiro PF, Silverberg MJ, Palella FJ, Patel P, Kitahata MM, Crane HM, Abraham AG, Samji H, Napravnik S, Ahmed T, Thorne JE, Bosch RJ, Mayor AM, Althoff KN ; North American AIDS Cohort Collaboration on Research and Design (NA-ACCORD) : First occurrence of diabetes, chronic kidney disease, and hypertension among north American HIV-infected adults, 2000-2013. *Clin Infect Dis* 15 : 459-467, 2017.
- 9) Olson B, Vincent W, Meyer JP, Kershaw T, Sikkema KJ, Heckman TG, Hansen NB : Depressive symptoms, physical symptoms, and health-related quality of life among older adults with HIV. *Qual Life Res* 28 : 3313-3322, 2019.
- 10) Corrigan KL, Wall KC, Bartlett JA, Suneja G : Cancer disparities in people with HIV : a systematic review of screening for non-AIDS-defining malignancies. *Cancer* 15 : 843-853, 2019.
- 11) 日ノ下文彦 : HIV 感染患者における透析医療の推進に関する研究. 厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成 29 年度研究報告書. 26-37, 2018.
- 12) 山内哲也 : 福祉施設における HIV 陽性者の受け入れ課題と対策. 厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成 30 年度研究報告書. 26-31, 2019.
- 13) 細井舞子, 安井典子, 松本珠実, 奥町彰礼, 廣川秀徹, 半羽宏之 : 障がい者福祉施設職員における HIV 感染者の自施設利用に関する意向および関連する要因. 日本エイズ学会誌 18 : 72-78, 2016.
- 14) Kinai E, Komatsu K, Sakamoto M, Taniguchi T, Nakao A, Igari H, Takada K, Watanabe A, Takahashi-Nakazato A, Takano M, Kikuchi Y, Oka S ; for HIV-Associated Neurocognitive Disorders in Japanese (J-HAND study group) : Association of age and time of disease with HIV-associated neurocognitive disorders : a Japanese nationwide multi-center study. *J Neurovirol* 23 : 864-874, 2017.

Comparative Study of Medical Institutions in Ehime Prefecture Based on a Questionnaire after HIV/AIDS Workshops

Koichiro SUEMORI¹⁾, Keiko TANAKA²⁾, Tomoko ISHIKAWA³⁾, Keiko ONO³⁾, Yoshika SHIBATA⁴⁾,
Reiko TAKEDA⁴⁾, Aya WAKAMATSU⁴⁾, Masami MIYAZAKI⁴⁾, Aya NAKAO¹⁾, Masahiro NORIMATSU⁵⁾,
Hiroshi KIMURA⁵⁾, Tae YAMAOKA⁴⁾, Keiko IDO⁵⁾, Katsuto TAKENAKA¹⁾ and Kiyonori TAKADA⁶⁾

¹⁾ Department of Hematology, Clinical Immunology and Infectious Diseases, and

²⁾ Department of Epidemiology and Preventive Medicine, Ehime University Graduate School of Medicine,

³⁾ Total Medical Support Center, ⁴⁾ Division of Nursing, ⁵⁾ Division of Pharmacy, and

⁶⁾ Postgraduate Clinical Training Center, Ehime University Hospital

Purpose : We conducted a comparative investigation of medical institutions in Ehime prefecture using a questionnaire after HIV/AIDS workshops to examine the differences among medical institutions in understanding of the disease, and patient acceptance.

Methods : The survey targeted 1868 individuals at 25 facilities between July 2015 and December 2019 focusing on seven items : age, sex, occupation, evaluation of the workshops, acquisition of information on the disease, understanding of the disease, and patient acceptance.

Results : The proportion of younger age groups was higher at the AIDS core hospital (our hospital). In terms of gender distribution, women accounted for the majority at all medical institutions. However, types of occupation were unevenly distributed at the individual medical institutions. The ratio of doctors and nurses was high at our hospital but low at support facilities for the elderly/disabled and hospitals offering rehabilitation/long-term medical care, but the latter institutions had the highest ratio of caregivers. All medical institutions had high ratings for evaluation of workshops and acquisition of information on diseases. Understanding of the disease was highly evaluated at our hospital, support facilities for the elderly/disabled and hospitals offering rehabilitation/long-term medical care, but low at psychiatric hospitals. However, patient acceptance had a low rating at support facilities for the elderly/disabled, hospitals offering rehabilitation/long-term medical care, and psychiatric hospitals.

Conclusion : The present results indicate that in the context of HIV/AIDS it is particularly important to raise awareness and strengthen cooperation among support facilities for the elderly/disabled, hospitals offering rehabilitation/long-term medical care, and psychiatric hospitals in Ehime Prefecture.

Key words : comparative study, HIV/AIDS workshop, questionnaire